

## 領域計画書作成に当たって留意すること

○本留意事項の内容を十分に確認し、領域計画書(全体版)の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○

### 留意事項①：

1. 本研究種目は、次代の学術の担い手となる研究者による少数・小規模の研究グループの、これまでの研究で培った経験から生まれてくる、既存の概念を覆すようなアイデアや発見、手法等により、挑戦的かつ萌芽的な研究に取り組むことで、これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを先導することを目的としたものです。
2. 本提案の検討に当たっては、重要と考えられてきた概念を根本的に変化させたり、まったく新しいパラダイムの創造へとつながる可能性のある研究など学術の変革を導くような飛躍的な展開を可能とする潜在性を有するものであることについて留意すること。
3. 学術変革領域研究(B)は、公募要領(「II.公募の内容 3.各研究種目の内容 ①学術変革領域研究(A・B) (2)」参照)記載の四つの審査区分により、広い分野の委員構成で多角的視点から審査が行われることに留意の上、領域計画書を作成すること。
4. 学術変革領域研究(B)では、様式S-75(「領域計画書の概要」、「研究計画調書の概要」、「過去の採択研究課題からの発展性」欄)に領域計画書「応募情報(Web入力項目)」を加えた「領域計画書(概要版)」のみによる事前の選考を行います(応募件数が少ない場合、事前の選考は行いません)。
5. 書面審査及び合議審査では、様式S-75(「領域計画書の概要」、「研究計画調書の概要」、「過去の採択研究課題からの発展性」欄)は参照できないため、様式S-75(「領域計画書の概要」、「研究計画調書の概要」、「過去の採択研究課題からの発展性」欄)と本様式は独立に作成する必要があります。例えば、様式S-75(「領域計画書の概要」、「研究計画調書の概要」、「過去の採択研究課題からの発展性」欄)に載せた図を本様式で引用することはできないため、必要な図はそれぞれに記載すること。
6. 「(e)過去の採択研究課題からの発展性(該当する研究領域のみ)」への記述は「領域計画書(概要版)」の同項目と同じ内容とすること。

### 留意事項②：

1. 作成に当たっては、領域計画書(全体版)・領域計画書(概要版)作成・記入要領を必ず確認すること。
2. 本文全体は11ポイント以上の大きさの文字等を使用すること。
3. 各頁の上部のタイトルと指示書きは動かさないこと。
4. 指示書きで定められた頁数は超えないこと。なお、空白の頁が生じても削除しないこと。

○本留意事項の内容を十分に確認し、領域計画書(全体版)の作成時にはこのテキストボックスごと削除すること○